

TM-0062

新聞における人名の使い方調査

石井 暁

May, 1984

©ICOT, 1984

ICOT

Mita Kokusai Bldg. 21F
4-28 Mita 1-Chome
Minato-ku Tokyo 108 Japan

(03) 456-3191-5
Telex ICOT J32964

Institute for New Generation Computer Technology

要 約

文章に現れた人名を計算機によって確認できれば信頼性の向上等の点で望ましい。そこで、その準備として次の様な調査を行った。調査の対象資料は、1日分の新聞記事であり、1871回現れた人名を手作業で収集、整理した。

(1) 次の様な型式で現れる。

組織名と職名が伴って	79回(政治面が中心。)
職名が伴って	227回(政治面とスポーツ面が中心。)
敬称、肩書が伴って	272回(各面で。文化、芸能、家庭面で目立つ。)
単独に用いられる	1293回(スポーツ面が中心。次に芸能面。)

用いられた職名等について分類し、とりまとめた。

(2) 人名録の参照による人名の確認のためには、例えば人名とその人が所属する組織とその中で地位の様な紐を文章から作り出す必要がある。その際、次の様な機能が必要である。

人名の現れた文節の理解で可	出現回数で	10%
記事のフォームの理解で可		43%
他の出現との関係の理解で可		8%
文章の理解で可		14%
記事のテーマの理解で可		24%
(困難)		1%

である。人名の現れた文節の理解のみですむのは、わずか1割にすぎない。

(3) 人名録類の有効性については、有効と思われる者から、あまり有効でないと思われる者へ、順にならべると

公務員(政治家を含む)	出現回数で	13%
外国の政治家		3%

スポーツ選手等	55%
芸能人	4%
文化人	7%
大学教員	4%
企業の役員等	2%

となり、その他に

記者	1%
一般人	11%

がある。この2種は確認が困難と仮定し、その他について適当と思われる人名録を選ぶと、約20万人のデータで全出現の3/4程度が確認できることになる。

目 次

1. はじめに	1
2. 調査方法	2
2.1 調査対象資料	2
2.2 参照した人名録類	2
2.3 型式による分類	5
3. 調査結果	10
3.1 人名の出現回数	10
3.2 伴って用いられた職名等	12
3.3 他文節との関連性	15
3.4 人名録類の有効性	23
4. おわりに	32
文献	34
付録1. 無視した人名の出現	36
付録2. 各面の人名の出現回数の詳細	37
付録3. 組織名と職名が伴う物の組織名の一覧	39
付録4. 組織名と職名が伴う物の職名の一覧	40
付録5. 職名が伴う物の職名の一覧	41
付録6. 肩書が伴う物の肩書の一覧	43
付録7. 敬称が伴う物の敬称の一覧	44

(最終ページ 44)

1. はじめに

人名は数字と並んで文章において重要であり、また、失礼にもなる事から誤りたくない。しかるに誤った場合、誤りの発見が困難である。〔2〕〔4〕特に新聞においては人名が多い(記事の20%近くが固有名詞であるという。〔2〕)ため、その確認に努力しているが、時間の制約も有り、なかなか完全には行えない。

そこで、人名の確認を計算機に行わせる事ができれば、記事の信頼性の向上に効果が期待できる。また、完全な修正ができれば校正者による修正が約1割減少する事にもなる。〔1〕

本文は、人名の計算機による確認に当って必要となる次の3点を実際の1日分の新聞記事に依って調査した物である。

(1) 伴って用いられた職名等

人名は単独に用いられる事もあるが、職名、敬称等を伴った型式で用いられる事も多い。どの型式がどの程度使われ、どの様な職名等が使われるか。これにより、文章の単語分けについての必要な特性を知り、また、その効率向上のための資料とする。

(2) 他文節との関連性

人名録の参照による人名の確認には、文章から例えば人名とその人の所属する組織と其中での地位の3つ組を作り出す必要がある。そのためには、人名が現れた文節の理解だけで充分なのか、もし他文節の理解も併せて必要なら、どの程度の理解が必要か。これにより、必要な文章の理解や記事の理解の程度を知る。

(3) 人名録の有効性

どの様な人名録により、現れた人名のどの程度が確認できるか。これにより、どの位の大きさのデータベースが必要となるかを知り、更にそのデータ構造設計の資料とする。

2. 調査方法

2. 1 調査対象資料

調査の対象とした資料は朝日新聞1983年7月19日(火曜日)の横浜東部版の朝刊(24ページ)及び夕刊(12ページ)である。異なる版のページもあるが、多くのページが朝刊は14版、夕刊は4版である。

この1日分の紙面の人名の収集と整理を手作業で行う事により、次章の調査結果を得た。例は全てこの1日の記事に実在する物である。

調査対象は見出し、表を含む全記事である。ただし、次の物は除いた。

広告

ラジオ、テレビ番組表及びその紹介記事(ただし、コラムは調べた)

連載小説の本文(ただし作者名、画家名は調べた)

人名に基づく会社名等(高橋絹織、大石頭一中隊、免田事件、鈴木派など)

漫画類(題名や著者名を含む)

次の物は狭い意味では人名でないが、調査に含めてある。

コラム欄の署者名で、筆名を使っている物(竜騎兵、紅など)

しこ名、芸名、リングネーム

2. 2 参照した人名録類

紙面に現れた人名を確認するための人名録類は、なるべく少量の入手の容易なデータによってなるべく多くの人名の出現を確認できる様を選ぶ必要がある。この調査では、次のデータを選び、それでどの程度の確認が可能かを調べた。

(1) 公務員(政治家を含む)について

(i) 課長以上

比較的上級の公務員を中心とした資料であり、大蔵省の職員録^[5]の索引に記載のある者とした。人数は約1万人であり、

国会議員

国の内部部局の課長レベル以上の者

都道府県の部長レベル以上の者

等を含む。

(ii) 局長以上

上級の公務員を中心とした資料であり、朝日年鑑^[3]別巻の次の欄に記載された者とした。

衆議院議員(pp. 43～55)

参議院議員(pp. 55～60)

皇室(pp. 61～62)

官公庁要覧(“在日外国公館”を除く。pp. 173～193)

最後の官公庁要覧に記載された者は

国の機関の局長以上

都道府県の知事、議長

等である。

人数は合計約5千人である。

(iii) 係長以上

かなり多くの公務員の資料であり、大蔵省の職員録^[5]の本文に記載された者とした。人数は70万人程度と考えられ、

国の係長レベル以上の者

都道府県の係長レベル以上の者

等を含んでいる。

(2) 外国の政治家(上級公務員を含む)

朝日年鑑^[3]で

各国要覧(本巻 pp. 111～191)

官公庁要覧の“在日外国公館”(別巻 pp. 193～195)

の2つの欄に記載された者とした。

各国要覧には約180の国、地区についての記述がある。例外的に人名の記載のない国もあるが、少い国で1人(元首)、多い国(アメリカ等)では元首、閣僚、上級の公務員、政党の役員等20人程度の記載がある。

官公庁要覧の在日外国公館には約百の国、機関について代表者(主に大使)の記載がある。

この2つの欄に記載された人名は合計約千人である。

(3) 大学教員

全国大学職員録^[6]による全国の大学の助手以上の教員のデータとした。人数は約13万人である。教授以上に索引があり、それは約4万人である。また助教授以上は約9万人と考えられる。

この他に(1)の(i)(課長以上の公務員)には国公立大学の学部長以上の者、また(1)の(iii)(係長以上の公務員)には国公立大学の助教授以上の者の記載があるのも用いた。

(4) 企業の役員等

上場会社、非上場会社各々についてダイヤモンド社の会社職員録^{[7][8]}によった。上場会社については役員約3万人及び管理職約13万人の記載がある。また、非上場会社については約10万人の記載がある。

(5) 文化人

ここでの文化人とは、作家、作曲家、写真家、画家、音楽家、演出家等である。朝日年鑑の人名録^[3、別巻 pp. 63~169]に記載のある者とした。約6千人が記載されているが、その中には市長や大学の教員、会社の役員等も含まれている。

(6) スポーツ選手等

プロ野球、大相撲、プロの将棋、プロの囲碁について、次の資料を用いた。

プロ野球の監督、コーチ、選手については新聞^[13]による。人数は約8百人である。

大相撲の力士のしこ名については“相撲”^[14]による。人数は約8百人である。

将棋の棋士については将棋年鑑^[10]による。人数は約2百人である。

囲碁の棋士については囲碁年鑑^[11]による。人数は約5百人である。

(7) 芸能人

芸能人については、出演者名簿^[9]による。これは、ラジオ・TV・映画・演劇・音楽・舞踊・能楽・歌舞伎・講談・落語・浪曲・漫才等の出演者の名簿であり、約9千

人の記載がある。

2.3 型式による分類

名前の使い方を型式によって次の4種に分類した。 [15], [16]

- (1) 名前に組織名と職名が伴う物
- (2) 名前に職名が伴う物
- (3) 名前に敬称、肩書が伴う物
- (4) 名前が単独に用いられる物

各々について説明する。尚、これらに簡単には分類できない例が12回現れたが、それらは無視した。無視した物の詳細は付録1に添えた。

(1) 名前に組織名と職名が伴う物

公的な立場の人の正確な表現として用いられる物であり、次の様な型式がある。

(i) {名前} {組織名} {職名} *

レーガン米大統領
千秋健施設部長

などである。ここで、組織名と職名が伴えば特定の人を指している事が容易に解ると思われるが、下の例では、“施設部”なる部が（他にも有るかも知れないが、ここでは）政府の総理府の防衛施設庁にある物を指しているという事を記事から理解して初めてどの人の事が特定できる。これは必ずしも容易な事ではない。

変型例としては

{名前}・{組織名}{職名}
{名前}{組織名}┌{職名} **

* { }で囲まれた物はここでの仮の記述であり、実際の記事では別の語によって置き換えられる。例えば{名前}がレーガンによって置き換えられる。これに対して{ }で囲まれない“前”や“元”（次ページ参照）はそのまま記事に現れる。

** 空白の存在をはっきりさせるため、“┌”記号を使う。

と中点や空白が入る物や

{名前}前{組織名}{職名} *
{名前}元{組織名}{職名}

と“前”や“元”の入る物がある。

(ii) {組織名}(. . . {名前}{職名}. . .)

人より組織に重点を置いた書き方であり、次の様な例がある。

東京医科歯科大学(吉田久学長. . . .
横浜地裁(佐野昭一裁判長)

(iii) {組織名}{職名}{名前}

製作本部長川村数増
米空軍軍曹ジェネロ・D・ウィリアムス

等である。変型例として

{組織名}{職名}┌{名前}

がある。

これらは、人事の記事で側条書きに近い物(政治面や経済面)の他は、被疑者(社会面)程度にしか使用しない様である。

(2) 名前に職名が伴う物

これも公的な人を記述するのに用いられる。組織名が伴わない理由としては

- ・伴わないのが普通である。(聞僚等)
- ・記事のどこかで組織名が現れている。
- ・初回は組織名が伴って用いられた。

である。具体的には次の様な型で用いられる。

(i) {名前}{職名}

* 前ページの注参照。

広く用いられており、次の様な例がある。

中曽根首相
飛鳥田委員長
木村巖長

変型例としては

{姓} 〔名〕 {職名}

と、姓と名の間に空白が入る物（写真の説明や署名など）、

{名前} 前 {職名}
{名前} 元 {職名}

と、“前”や“元”が入る物がある。

(3) 名前に敬称、肩書が伴う場合

(i) {名前} {敬称}

木村氏
関さん

等、広く用いられている。これだけでは誰のことか、解らないので、次の様に使われる。

- ・その記事中で(1)の様に組織名、職名と共に、又は(2)の様に職名と共に、または説明付きで既に出ている。
- ・見出しや写真の説明に用いられる。
- ・組織等の説明が付いて用いられる。
- ・(その記事の読者にとって)有名な人であり、これだけで解る。

変型した物としては

{姓} 〔名〕 {敬称}

と、姓と名の間に空白を入れた物がある。

(ii) {肩書}{名前}{敬称}

(i) の使い方の1つとして、その記事中に粗職等の説明がある場合を挙げたが、それが肩書となって名前の直前に置かれた物である。

幹事長
弁護士
監督

の様に(2)で述べた職名としても用いられる語が肩書として用いられる事もあるが、

作家
石油王
妻
愛人
三年
藤沢市

等、職名としては使えない語が肩書として付く事ははるかに多い。

変型例としては

前{肩書}{名前}{敬称}
元{肩書}{名前}{敬称}

と“前”や“元”が付く物がある。

(iii) {肩書}{名前}

上に述べた(ii)の敬称が付かない物である。敬称が付かない理由は

- ・被疑者の場合
- ・その欄の書き方がそうになっている場合(箇条書きに近い場合や、芸能・スポーツの記事など)

の様である。

変型例としては

{肩書}・{名前}

(肩書) 〱 {名前}

と間に・や空白が入る物がある。

例は次の様な物がある。

税理士新平重夫
無職松岡巖美
妻ミエ子
横綱千代の富士
民謡歌手金沢明子
父金沢大成
作曲家チャイコフスキー
監督・大林宣彦
代表〱宇都宮徳馬

(4) 名前が単独に用いられる場合

特に説明の必要は無いと思われる。この使い方が用いられるのは

- ・スポーツ、芸能の記事。(特に今回の調査対象はプロ野球、高校野球のシーズンの物なので多い。)(スポーツ面及び地方面)
- ・被疑者(社会面)
- ・投稿者、発言者、文化面・コラム等の筆者
- ・歴史的人物、敬称略の場合
- ・表、個条書、列挙型の場合
- ・別の語と連続した場合

である。最後の例は

中曽根発言
レーガン提案
ひばり節
佐藤巧太郎指揮

等である。

3. 調査結果

3. 1 人名の出現回数

各面ごとに、既に述べた4種の分類に従って人名が現れた回数を数えると表1の様になる。記述のない面は全面広告である。これに基づいて考察する。尚、更に詳細にしたものを付録2に添える。

(1) 全体の回数

1日分で1871回人名が現れている。文字数を推定すると、4500字程度と考えられる。番組欄の人名等も加えると5千字を越え、文字数で記事全体(朝刊が17万字^[17]で、1日ではその5割増と考えられる)の2%程度と考えられる。

(2) 面に対する考察

今回の調査対象が丁度高校野球の時期の物であったため、それが載っている朝刊の20、21面(地方面)の各421回、220回と夕刊の10面(社会面)の127回が多い。朝刊16面(スポーツ面)は222回でプロ野球の記事のため、高校野球関係に次いで多い。それに続くのが朝刊2面(政治面)の106回、夕刊8面(芸能面)の99回、朝刊17面(スポーツ面)の82回である。朝刊2面は政界や政府の人事記事のためであり、夕刊8面や朝刊17面は記事の性質上“誰が”が重視されるからである。

反対に少ない面は朝刊11面、夕刊4面(いずれも株式面)や朝刊24面、夕刊12面(いずれも番組面)である。番組面は番組表や番組の紹介を調査対象から除いたので少なくなっているが、それを調べればかなり多く人名が現れている。

その他の面は9～71回で、どの面にも人名が現れている。

4通りの分類ごとの特性を見る。組織名と職名が伴った物は、比較的“正式”な、また“堅い”表現であり、内外の政治家、公務員、大学教員等に使われるので、政治面が中心になる。しかし、他にもいくつかの面で現れる。

職名が伴った物は、上の組織名をも伴った場合と同様に政治家に多いので政治面が中心になる。一方、スポーツ選手等にも使われ、スポーツ面にも多い。

敬称、肩書が伴う物は、どの面にも現れる。しかし文化、芸能、家庭の各面で目立ち、また社会面でも多く現れる。

単独に用いられる物は、地方面(高校野球)、スポーツ面、社会面(高校野球)、芸能面に多い。

主な面を、現れた人名がどの種の資料に載っているかによって、極く大雑把に分類した物を表1の右に添えた。各々の意味と、それに属する名前の出現回数は以下の様になる。

表1 各面の人名の出現回数

面	分類	組織	職名	敬称	単用	計	記特 載で人 がき名 期る録	
		職名と が物	伴名が う物	が伴物 肩書	にいら る物			
朝刊	1 (政治)	2	24	15	10	51	A	
	2 (政治)	22	37	42	5	106	A	
	3 (社会)	10	22	24	1	57	A	
	4 (解説)		2	4	8	14	H	
	5 (社説、投書)	2	1	9	23	35	H	
	7 (国際)	5	14	15	9	43	B	
	8 (経済)	2	9	5	4	20	D	
	9 (経済)	4	8	1	6	19	D	
	11 (株式)							
	14 (教育)	4		2	30	36	C	
	15 (家庭)			5	8	13	H	
	16 (スポーツ)	2	18	6	196	222	F	
	17 (スポーツ)		10	8	64	82	F	
	20 (地方)		14	6	401	421	F	
	21 (地方)	1	17	11	191	220	F	
	22 (社会)	4	10	8	24	46	H	
	23 (社会)	3	5	28	35	71	H	
	24 (番組)				4	4		
	夕刊	1 (政治)	6	9	11	15	41	A
		2 (政治)	4	14	14	8	40	A
		3 (特集ニュース)	1	5		3	9	B
		4 (株式)				1	1	
		5 (文化)			8	36	44	E
		8 (芸能)			5	94	99	G
9 (文化)				13	7	20	H	
10 (社会)		3	4	13	107	127	F	
11 (社会)		4	4	19	3	30	H	
12 (番組)								
計		79	227	272	1293	1871		

A：公務員（政治家を含む）	295回
B：外国の政治家（上級公務員を含む）	52回
C：大学教員	36回
D：企業の役員等	39回
E：文化人	44回
F：スポーツ選手等	1072回
G：芸能人	99回
H：その他（資料の記載が期待できない）	229回
合 計	1866回

既に述べた様にスポーツ選手が圧倒的に多く、公務員がそれに次ぐ。次が芸能人である。外国の政治家、大学教員、企業の役員等、文化人の4種はそれ程差が無い。資料に記載されている事が期待できない一般人も1割余りいる。逆に言えば9割近くが、何らかの資料に記載されていると期待される。

繰り返すが、この分類は極く大雑把に算出したものであり、傾向を見るためだけの物である。後の節で更に詳細に考察する。

3. 2 伴って用いられた職名等

(1) 組織名と職名が伴う物の組織名

組織名として用いられる物は

国会・政府・裁判所の機関	19種	24回
政党やその機関	11種	14回
外国やその機関	12種	20回
大学や学部	9種	12回
会社名等	8種	9回

である。このリストは付録3に添える。

これの各々について検討する。国会・政府・裁判所については、両院、府、庁、局、官房、地裁（各部）の比較的上級の機関が約8割（出現頻度で。以下同じ）をしめており、他に部、室、厚生年金保険部会、国立公園管理事務所がある。最後の国立公園管理事務所は社会面に載った物であり、政治面と違って予想外の物が出易い。

外国についてはアメリカと、パキスタン（大統領がこの時期来日していた）が圧倒的に多い。他にヨーロッパや中近東の国を合わせて3/4をしめる。その他は外国の政党

の他、アメリカの局、軍、戦艦、NASAであり、アメリカについてはかなり細かい組織も現れる事が解る。

政党については、各党の他、各党の調査会や委員会が現れる。当然自民党が多い。

大学は大学名、学部名、付属病院が現れている。大学名は、いくつかの省略名も使われている。東京医科歯科大学については事件があったため、多く現れている。

会社名は、上場会社名が直接現れる事は約2割、またその部等を含めても約4割で、意外に少い。そのため、上場会社のみデータでは余り役に立たないとも考えられる。しかし、今回は少いが、上場会社については、経済面の人事の記事で会社名や、その部等が現れることが多い。そのため上場会社のデータのみでも意味があろう。この記事は取締役の人事について載るので、部長（次に取締役にになりそうな人のいるポスト）までデータを集めなければ、約半分の人名については確認できないことになる。その他に合併会社が現れる。また社会面に現れる会社名は小さな会社の物が多く、手がかりが無い。

(2) 組織名と職名が伴う物の職名

職名は組織名程分類が容易ではないが、一応次の様になる。

国会・政府・裁判所の職名	7種	15回
政党の職名	3種	12回
外国の職名	7種	17回
大学の職名	3種	7回
会社の職名	1種	5回
一般的な職名	2種	23回

これの全リストは付録4に添える。

これらは前に述べた組織名の長である事が多いが、次の様な物もある。

それと似たレベルの者（大統領科学技術顧問、総務長官、第一書記など）

それに次ぐ者（総務副長官、幹事長代理など）

閣僚（石油相など）

全メンバ（議員、教授、助教授など）

(3) 職名が伴う物の職名

職名として用いられる物は

国会・政府・裁判所の職名	25種	77回
--------------	-----	-----

政党の職名	5種	17回
外国の職名	6種	20回
大学の職名	1種	20回
会社の職名	3種	7回
スポーツの職名	19種	50回
新聞社の職名	3種	19回
一般的な職名	8種	17回

である。これの詳細は付録5に添える。

政府等については、日本の関係は組織名を伴わずにこの型式で現れている。今迄に現れなかった物は、閣僚の他、次官、審議官、検事長、次席、検事正、審判官などである。

外国関係では、在日韓国大使が新しく現れている。

スポーツは主に野球のポジション（投手など）である。その他に相撲関係がある。また、これには囲碁、将棋の名人や段位を含んでいる。

新聞は特派員、記者、編集委員である。

ここに一般という分類は、会長、会長代理、理事長、専務理事、委員、総裁などである。これらは審議会、業界団体、日本銀行などのポストである。

(4) 肩書が伴う物の肩書

肩書として用いられる物は

職業	20種	28回
家族関係	5種	12回
所属	6種	6回
身分	6種	6回
スポーツ	4種	6回

である。これの詳細は付録6に添える。

職業は弁護士、公認会計士や税理士の様に公的な資格を伴う物もあるが、作曲家、トレース業、会社員、暴力団員、更に無職の様になかなかない物が多い。

家族関係は父、母などである。

所属は藤沢市などの住所や、三年などの学年や、組織を使った物がある。

身分は石油王、愛人、巡礼者などである。

スポーツ関係は既に出た職名と同様である。

(5) 敬称が伴う物の敬称

敬称として用いられる物は

氏	127回
さん	87回
その他	9種 30回

である。詳細は付録7に添える。

3.3 他文節との関連性

既に述べた様に名前の現れた文節の理解のみではそれが誰の事が特定できず、よってデータベースを利用した確認も難しい場合がある。例えば“レーガン米大統領”という表現ならば誰のことかはっきりしているが、“千秋健施設部長”という表現においては、施設部がどこに（政府の総理府の防衛施設庁に）有る物かを知らなければ、誰のことかはっきり特定できない。（p.5参照）そこで、どの程度が文節の理解のみで充分であり、他にどの程度が何の理解を必要とするかを調べた。

表2が型式（いくらか細かく分けた）ごとに必要とされる理解の範囲をまとめた物である。これに基づいて考察する。

ここで、文章の理解なしでも力づくでデータベースを検索すれば良いという考え方も有る。即ち前の例で“施設部”という組織名、又は“千秋健”という人名をキーに、記憶しているデータベースの全体から検索すれば記事の理解は不要とのやり方である。しかしこのやり方は、同名の人の存在に加えて、組織名や人名に予期せぬ省略や誤りが有る場合、いかにデータベース側の工夫が優れていても、負荷が大きくなりすぎると考えられる。そこで、文章の理解の能力は不可欠であろう。

芸能人等についても同じ理由から、少くともその人が芸能人である事、更に可能ならば例えば歌手であるか、俳優であるかを文章から得なければならぬと考える。

(1) 組織名と職名が伴う物

(i) 誰の事が特定できる物は、組織名が次の物から記述されている物とした。

- 省、庁、又は府から（公務員）
- 政党から（政治家）
- 国から（外国の政治家他）
- 大学から（大学教員）
- 会社から（会社役員、従業員）

表2 必要な理解の範囲

型 式	使 い 方	出 現 回 数	必 要 な 理 解 の 範 囲
組織名と職名が伴う物	特定可 説明つき	54	文 節
		25	文 章
職名が伴う物	特定可 説明つき 他に組織名を伴って	67	文 節
		151	文 章
		9	他の出現との関係
敬称、肩書が伴う物	特定可 説明つき 他に詳しい型式で	42	記事のテーマ
敬称のみ		81	文 章
		91	他の出現との関係
敬称・肩書つき		32	文 節
肩書のみ		18	文 節
	8	文 節	
単独に用いられる物	スポーツ、芸能 被疑者 投書者、発言者 歴史的、敬称略 表、個条書、列挙 別の語と連続	361	記事のテーマ
		57	他の出現との関係
		92	記事のフォーム
		41	記事のテーマ
		722	記事のフォーム
		20	(困 難)

その結果、組織名から特定でき、その文節の理解のみで良い物が54回である。

- (ii) 一方、他の文節の説明を用いなければ、特定できない物が25回で、約1/3を占めており、結構多い。即ち、ある省の記事ではその省の局が直接現れ、ある政党の記事ではその党のポストが直接現れ、ある国の記事ではその国の省等が直接現れる事等が珍しくない事が解る。

これに対応するためには文節より広い範囲の文章の理解が必要になる。必要な理解の範囲は

防衛施設庁の千秋健施設部長

の例の様にかなり狭い例も多い。しかし、記事の先頭に

金子農林水産相は……を決定した。

という直接には農水省という言葉は出ない文がある事からその記事の局や官房が農水省の物であることを理解する程度の、複数の文の理解の能力が必要となることもある。

(2) 職名が伴う物

- (i) 次の職名については組織名を伴わずに用いられるのが普通であり、職名のみで人物が特定できるとした。

首相
閣僚
代議士

(最後の例は一人の人間に特定できるわけではないが、一応これも特定できると考える。)

この種の物が67回で約3割を占める。

- (ii) その文節のみでは人物が特定できず、文章の理解が必要な物が151回で多く、7割近くを占める。この際必要となる文章の理解は、前の組織名と職名が伴う物で述べた物と同様である。

(iii) 前には(1)で述べた様に組織名も伴って用いられた物が、職名のみで用いられた例が9回で4%程ある。例えば1回目は

ハク・バキスタン大統領

と出現していた物が2回目には

ハク大統領

となる物であり、前に現れた人名等を記憶し、比較するのみで、2回目以後の出現の確認が可能である。

(3) 敬称、肩書が伴う物

(3-1) 敬称のみで用いられる物

(i) 敬称のみ伴っているだけで、誰のことか特定できる例は、続き物のコラムや投書欄に多く42回ある。多く現れるのは

土光さん
免田氏

であり、各々行革、再審で多くとりあげられた、かなり有名で特定可能な人である。ただし、家庭面の投書欄には前日迄、その欄に現れた人が現れるので、前日迄の記事の内容を記憶し、それによって特定する事が必要になる。

これの確認には、その記事のテーマが何かを理解すればよい。具体的には行革についての記事である事を理解したり、あるシリーズのコラムの一部である事を理解したりする必要がある。

(ii) 別の説明が付いて現れ、その説明によって誰のことか特定できる物が81回ある。どの様に説明があるかは前に(1)の(ii)で述べた例と同様であり、前に述べた様な文章の理解が必要である。ただし、人事の記事や死亡記事においては、一定のフォームがある^[12]ので、それも手がかりになる。

(iii) 別の所に詳しい型式で現れる物が91回ある。例えば、前に(1)の様に組織名と職名を伴い、(2)の様に職名を伴い、または(ii)の様に説明付で現れた物である。

その他に見出しや写真の説明で用いられ、本文に詳しい記述のある例もある。これについては他の出現の情報を蓄え、それと比べる事が必要である。

(3-2) 敬称と肩書つきで用いられる物

敬称と肩書が併せて用いられるのは

前大蔵大臣渡辺美智雄氏

作家沖藤典子さん

麦ミツ子さん

等で、その人の初めての記述に用いられるので、その文節のみを理解すればよい。

(3-3) 肩書のみで用いられる物

前の肩書と敬称が共に用いられる物と同様に、初めてその名が使われる時に用いられる。記事の性格から、または被疑者の場合なので敬称が用いられない事のみが異っている。その文節の理解のみが必要となる。

(4) 単独に用いられる物

敬称等が全く用いられない物はいくつかの特別な場合に限られ、それぞれの場合ごとに事情が異っている。各々について考察する。

(4-1) スポーツ、芸能

スポーツ選手等、芸能人が各々スポーツ記事、芸能記事で現れる場合、“スポーツ”なり“芸能”なりの言葉が明示されることは殆ど期待できない。そこで記事のテーマの理解が必要になる。即ち、スポーツ記事であるとか、芸能記事であるとかをまず理解する必要がある。更に可能ならどのスポーツに関する記事か、また芸能のどの分野の記事かを理解する事が望ましい。

それだけではなく、文章の理解が必要となる場合もある。例えば野球の記事では、文章中にチーム名が現れるので、その記事に現れた選手がどのチームに属しているかを文章の理解により知る事が可能であり、望ましい。

上記のテーマの理解と文章の理解の困難度や重要度の比較は現状では不詳であり、ここではより基本的と考えられる記事のテーマの理解が、この種の記事について必要としておく。

(4-2) 被疑者

被疑者の場合初めは(3-3)に様の何らかの肩書が付いている事が多いので、それと比

較して確認する事が必要となる。初回から肩書などの説明が全く無い場合も少しはある。この確認は前日迄の記事との比較が必要となろう。

(4-3) 投書者、発言者

投書者や発言者は各々特別のフォームで書かれるので、そのフォームに基づいて判断することになる。

(4-4) 歴史的人物、敬称略

歴史的人物やコラム等で敬称略となっている場合は、その記事のテーマ（文芸か工学か等）を理解し、それに基づいて確認することになろう。

(4-5) 表、個条書、列挙

表として一番多いのが野球の結果の表（誰がどの守備位置で、何番を打ち、何打席何安打であったか等の表）である。この表は、表のフォームを理解すればチーム名も解り、それに基づけば各種の確認ができる。他の表も同様である。

個条書風の物としてはベストセラーの書物について書名と著者名他を並べた物などである。列挙した物は

佐佐木信綱・ ～ 両博士

等であり、これらも各々のフォームの理解により、普通の敬称付きと同様に扱える。その際、充分有効な職名等がなければ他に記事のテーマの理解も必要となろう。

(4-6) 別の語と連続した物

これは既に述べた様に

中曾根発言
レーガン提案
ひばり節
佐藤巧太郎指揮

の様な物であり、各々理想的に解析しない限り、これらの確認は困難である。

ここで(4-1) 芸能、スポーツ、(4-2) 被疑者、(4-4) 歴史的、敬称略、(4-6) 別の語と連続、については、名前が普通の文章にうめ込まれており、敬称や記事のフォームの助けなしにそれを名前であると認識する必要がある。（これらの合計は479回で単独に用いられる物の37%、全体の26%になる。）このためには高速に検索できる人名

のリストの用意が無視できない要素となろう。

以上を必要な理解の範囲に従って分類し、それに属する出現回数を数えると第1図に示す様になる。ここで必要な理解を易しいと思われる順にならべ、まとめておく。ただし、この順は、暫定的な物である。特に文章の理解と記事のテーマの理解について、どちらが困難か、はっきりしない。

文節の理解：人名が現れた文節に必要な組織名、職名等が含まれているので、それを理解すればよい。

記事のフォームの理解：記事の型が決まっており、特定の場所に筆者や発言者が現れたり、決まった型の表になったりしており、どの型の記事かを理解すればよい。

他の出現との関係の理解：同じ人名がその記事中にもっと詳しい説明つきで現れるので、それと照らし合わせることであればよい。

文章の理解：現れた人名に対する組織名、職名等が、記事のどこかに書かれているので、それとの対応をはっきりさせるべく、文章を理解すればよい。

記事のテーマの理解：その記事のテーマがどの分野であるか（例えば芸能）を記事全体から理解すればよい。

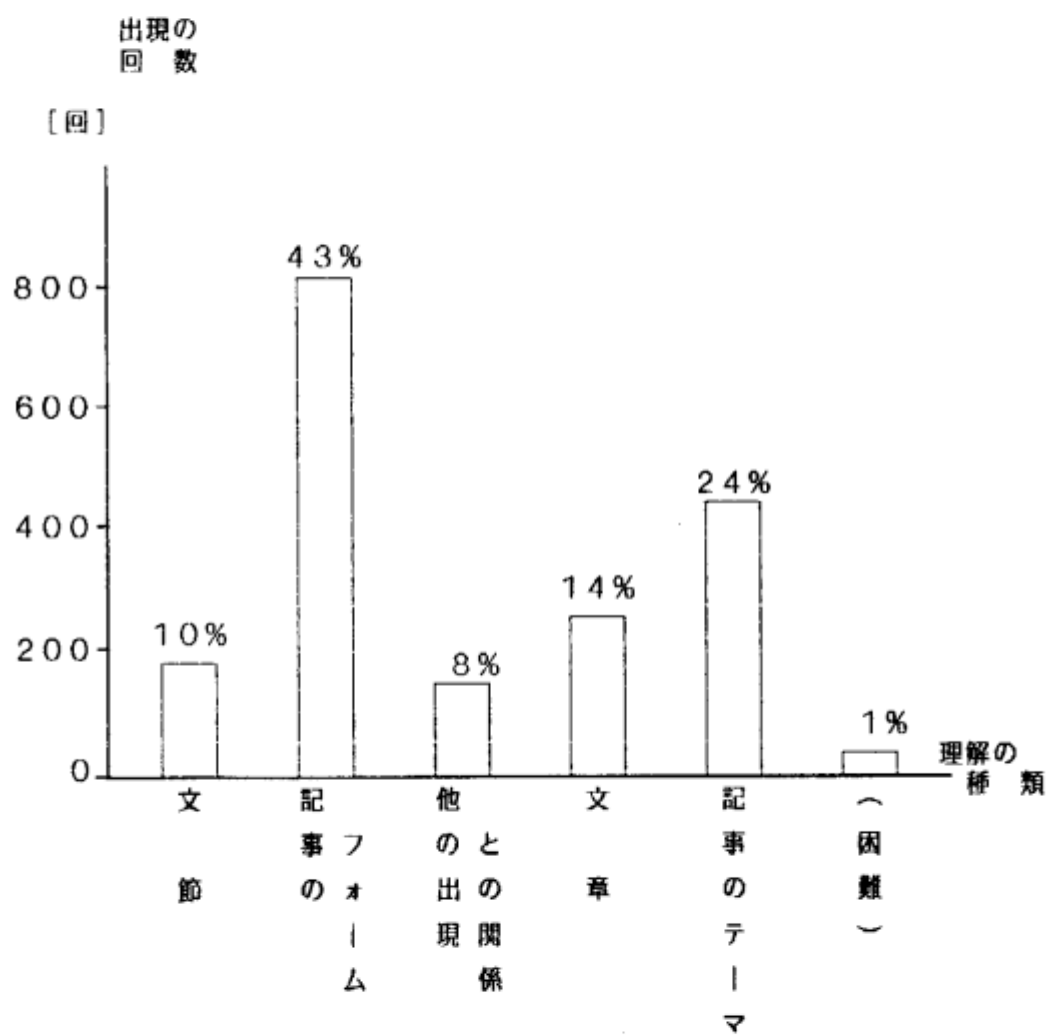
困難：人名との認識が少く、人名と他の言葉が一緒になって新しい言葉を作っており、その人の性質の記事中から見出すことは容易でない。

以下、第1図に基づいて考察する。

名前の現れた文節のみの理解ですむのは10%にすぎない。他はフォームの理解が必要であったり（43%）、多かれ少かれ、文章、記事の理解が必要であったり（46%、8+14+24%）する。人名の確認の計算機化は、文章処理の視点からは、文の理解より容易であると考えていた^[1]のは判断がかなり甘かった様である。また、1%は、名前と他の語が一体となっており文章解析からはその確認が難しい。

一番多いのは記事のフォームの理解が必要な物（43%）である。これは野球の結果の表に人名が多く現れている事に対応している。文章処理技術のみに頼る事なく、記事の約束事を利用する必要がある事が解る。

次に多いのは記事のテーマの理解が必要な物（24%）である。詳細な理解が必要なのではなく、例えばスポーツであり、野球であり、どのチームの記事かが解る程度でよい。どの面のどの記事かは入力時にある程度解っているので、それを用いるのも有効であろう。また、何人かの有名な人名から、その記事のテーマを判断する事も場合によってはできよう。



第1図 必要な理解の範囲とその割合

残りはその名前が同じ記事で他に現れているのとむすびつけたり（8%）、その記事はどの組織の話かを知ったりする（14%）必要がある物である。これらは必ずしも高度な文章理解ではないが、キーとなる話を適確に拾い挙げるには、研究の余地があろう。

3.4 人名録の有効性

現れた人名を次の9種に分類し、各々について2.2で述べた人名録等を用いてどの程度の人名の出現の確認が可能かを調べた。

(1) 公務員（政治家を含む）	現れた回数	248回（13%）
(2) 外国の政治家（上級公務員を含む）	”	61回（3%）
(3) 大学教員	”	65回（4%）
(4) 企業の役員等	”	37回（2%）
(5) 文化人	”	128回（7%）
(6) スポーツ選手等	”	1035回（55%）
(7) 芸能人	”	71回（4%）
(8) 記者	”	27回（1%）
(9) 一般人	”	199回（11%）

必ずしも1回1回人名が資料に記載されている事を直接確めたわけではない。時間の節約のためでもあり、また資料が古く、実際と合わない場合もあると考えたためでもある。

“前”や“元”の付く者については、現在その職にある者が資料に有れば確認可とした。厳密にはそのためには各々の資料の古い版のデータも持つ必要があり、かなりのデータ量の増加のおそれもある。しかし、“前”や“元”が付いて現れる者は首相、閣僚等、かなり限られた者である様なので、本調査では、上記の様に扱った。

(1) 公務員（政治家を含む）

(i) 課長以上（大蔵省の職員録の索引にある者）

公務員についての

248回の出現のうち179回の確認可（確認率72%）

となり、一方データベースの利用効率の面から見ると

約1万人のデータで174回の利用（利用率2%）

となる。

この資料は国公立大学の学部長以上の者も含んでいる。そこで大学教員も含めて数えると

313回の出現のうち184回の確認可（確認率59%）

また

約1万人のデータで184回の利用（利用率2%）

となる。

(ii) 局長以上（朝日年鑑による、政党役員、皇族を含む）

これによると

248回の出現のうち219回の確認可（確認率88%）

一方、データベースの利用効率の面から見ると、

約5千人のデータで219回の利用（利用率4%）

となる。

この資料と(i)の課長以上の者の資料を比較すると、

(i), (ii)両方に載っている回数	178回
(i) のみに載っている回数	7回
(ii) のみに載っている回数	41回

となる。(i)のみに載っている者（主に国の機関の部長）は少く、(ii)のみに載っている者（主に政党役員、次に皇族）はかなり多い。

(iii) 係長以上（大蔵省の職員録の本文にある者）

公務員についての

248回の出現のうち193回の確認可（確認率78%）

また

約70万人のデータで193回の利用（利用率0.03%）

となる。

これは(i)の課長以上の資料の場合と比較してデータベースの大きさが約70倍になったも拘らず確認可能となった出現の回数は次に述べる国公立大学の教員を除いて14回しか増えていない。この14回のうち8回は(ii)の局長以上の資料にもなく、裁判官が多い。また6回は(ii)の局長以上の資料にはあり、審議会委員である。

この資料は国公立大学の助教授以上の者も含んでいる。そこで大学教員も含めて数えると、

313回の出現のうち237回の確認可（確認率76%）

また

約70万人のデータで237回の利用（利用率0.03%）

となる。

(iv)以上の資料で確認できない物
公務員についての

248回の出現のうち14回（6%）

は以上の資料では確認できない。それらは

政党の役員で(ii)にない者
外交団のメンバ
特殊法人の役員

等である。

(2)外国の政治家（上級公務員を含む）

朝日年鑑によって確認すると

61回の出現のうち36回の確認可（確認率59%）

一方、データベースの利用効率の面から見ると、

約千人のデータで36回の利用（利用率4%）

となる。

尚、この分類に入れたのは元首、閣僚、政党役員、高級公務員、将校であり、文化人、芸能人、一般人については各々の分類に入れた。兵は一般人に入れた。

（3）大学教員

全国大学職員録によれば、一応

65回の出現のうち65回の確認可（確認率100%）

と期待される。一方、データベースの利用率は

約13万人のデータで65回の利用（利用率0.05%）

である。

利用率を上げるために、データベースを助教授以上や教授以上にすることが有効であろう。それにより、データの量は各々9万、4万件程度になる。また今回の調査では、講師、助手は現れていない。

尚（1）の(i)（課長以上の公務員）によって大学教員のみを確認すると

65回の出現のうち5回の確認可（確認率8%）

また（1）の(ii)（係長以上の公務員）によると

65回の出現のうち44回の確認可（確認率68%）

となる。

(4) 企業の役員等

上場会社の役員データのよると

37回の出現のうち23回の確認可(確認率62%)

また

約3万人のデータで23回の利用(利用率0.08%)

となる。上場会社の職員録の全データによると、

37回の出現のうち25回の確認可(確認率68%)

また

約16万人のデータで25回の利用(利用率0.02%)

となる。

更に非上場会社の職員録の全データを加えたデータによると

37回の出現のうち27回の確認可(確認率73%)

また

約26万人のデータで27回の利用(利用率0.01%)

となる。

以上でも確認できないのは

上場会社の管理職	1回
非上場会社で、その会社の記述がない	5回
業界団体の役員等	4回

計10回(27%)である。

(5) 文化人

朝日年鑑の人名録によると

128回の出現のうち36回の確認可（確認率28%）

また

約6千人のデータで36回の利用（利用率0.6%）

となる。

確認率が余り高くないのは、この資料の人数が少い他、現代のかつ日本人のデータのみとなっているためである。また、このデータには社長、市長、教授等も何人が含まれている。それを除けば利用率は少し高くなる。

（6）スポーツ

プロ野球、大相撲、将棋、囲碁については100%確認する事ができよう。ただし、相撲に関しては力士の本名の他、親方、行司、横綱審議会のメンバについてもデータが得られていると仮定する。その際、各々の利用率は

約8百人のデータで128回の利用（利用率16%）

約8百人のデータで69回の利用（利用率9%）

約2百人のデータで22回の利用（利用率11%）

約5百人のデータで12回の利用（利用率2%）

となる。以上のデータによりスポーツ関係全体で

1035回の出現のうち231回の確認可（確認率22%）

となる。

もし高校野球についてのデータが得られるなら、それについては

約5万人のデータで745回の利用（利用率1%）

となる。またスポーツ関係全体で

1035回の出現のうち976回の確認可（確認率94%）

となる。

ここで高校野球については参加校が3568校^[18]である事から、上記程度の人
数（データ件数）を仮定した。また、調査対象の頃は、大相撲の場所は開かれていな
い。しかし、新横綱が推薦されたニュースが載っているため、大相撲関係者の名前が
かなり現れている。

(7) 芸能人

出演者名簿によると

71回の出現のうち57回の確認可（確認率80%）

また

約9千人のデータで57回の利用（利用率0.6%）

となる。

この資料はデータの件数も多く、“出演者”についてはかなり良い資料であるが、
新人、外国人、引退した者についてのデータが含まれていないので、確認率は80%
に止まる。（ここでは引退した者は確認不可の扱いとした。）

(8) 記者

記者、編集委員、特派員更にコラムの著者の名前（変名を含む）が27回（1%）
現れていた。これについては内部資料に基づいた小さなデータベースにより完全に確
認する事が容易であろう。

(9) 一般人

社会面に載った者や、投書をした者等、資料での確認が困難と考えられる一般人が
199回（全体の11%）現れた。

以上を基に、各分野ごとに適当と思われるデータベースを選び、確認率、利用率をま
とめた物を表3に示す。データベースの有効さを示す指数として確認率と利用率を乗じ
たものを計算した。（これは人名を誤った時の影響の大きさや、データベース作成のコ
ストの多少等、多くの要素を無視した、仮の指数である。）この表を基に考察する。

公務員、外国の政治家については、朝日年鑑の資料がかなり有効である。特定の人
が多く現れる事が多く、また朝日年鑑の編集がよく枯れている事にもよっているだろう。

大学教員、会社役員については余り有効な確認が行えない。良い資料を得る事は可能

表3 適当なデータベースと確認率、利用率

分野	出現回数 (その比率 (%))	データベース	件数	確認 回数	確認率 (%)	利用率 (%)	確認率 * 利用率
			(千件)				
公務員 (政治家を含む)	248(13)	局長以上 (朝日年鑑)	5	219	88	4	352
外国の政治家 (上級公務員 を含む)	61(3)	各国要覧 在日外国公館 (朝日年鑑)	1	36	59	4	236
大学教員	65(4)	助教授以上	90	65	100	0.07	7
企業の役員等	37(2)	上場会社役員	30	23	62	0.08	5
文化人	128(7)	人名録 (朝日年鑑)	6	36	28	0.6	17
スポーツ選手等	1035(55)	プロ野球 大相撲 将棋 囲碁 高校野球	50	976	94	2	188
芸能人	71(4)	(出演者名簿)	9	57	80	0.6	48
記者	27(1)	——	—	0	0	——	——
一般人	199(11)	——	—	0	0	——	——
計	1871(100)		191	1412	75	0.7	53

でも、それ程多く現れないので、利用率が低く、高い物につく。ただし、会社役員については、交代のシーズンには多く現れるので、その際の効果を考える必要がある。これは高校以下の学校の教員についても同様であろう。

文化人については、大学教員の様に“定員”はないので、かなり多くの人数のデータベースを用意しないと確認率が上がらない様であり、これもかなり高い物につくと思われる。

反対にスポーツ選手等については、特定の人が多く現れるので、効果はかなり高い。即ち、大きく扱われるスポーツは限られているので、その選手を中心にデータベースを作れば、有効な確認ができる。

芸能人については上記文化人とスポーツ選手等の中間程度である。文化人と同様に“定員”はないが、長期間“現役”でいる者がスポーツと同様に必ずしも多くないためであろうか。

合計で、約20万件のデータで約3/4の確認ができる。本文では厳密な検討を加えなかった“前”や“元”が付く者の確認を完全に行うには、これの何倍かのデータ量を考慮しておく必要がある。

4. おわりに

文章に現れた人名を計算機で確認するための準備として、1日分の新聞記事により、新聞における人名の使い方の調査を行った。1871回現れた人名を手作業で収集、整理し、次の結果を得た。

(1) 伴って用いられた職名等

名前に組織名と職名が伴う物	79回
名前に職名が伴う物	227回
名前に敬称、肩書が伴う物	272回
名前が単独に用いられる物	1293回

である。

組織名と職名が伴う物は政治家、公務員、大学教員等に使われ、主に政治面で現れる。職名が伴う物は政治面の他、スポーツ面でも現れる。敬称、肩書が伴う物はどの面でも現れるが、文化、芸能、家庭面ではこれが目立つ。単独に用いられる物はスポーツ記事と芸能面に多い。特にスポーツ記事で回数が大変に多くなっている。

伴って用いられる職名等は以上の特徴が表れた物となっている。

(2) 他文節との関連性

人名録の参照による人名の確認のために、人名と、例えばその人の所属する組織と其中での地位の様な組を作り出すためには、人名の現れた文節の理解のみでは不十分な場合が多い。即ち必要な理解の範囲と、それに属す出現の比率は

文節	10%
記事のフォーム	43%
他の出現との関係	8%
文章	14%
記事のテーマ	24%
(困難)	1%

である。

(3) 人名録の有効性

公務員と、外国の政治家(各々全体の13%、3%)については良い資料が得られ、

有効に確認できる。大学教員、企業の役員等（各々全体の4%、2%）については、良い資料は得られても余り多く現れないので、高い物につく。文化人（全体の7%）は確認が困難である。スポーツ選手等（全体の55%）については大きく扱われるスポーツの選手のデータにより有効に確認し得る。芸能人（全体の4%）については少し多いデータを用意すれば有効に確認し得る。

記者（全体の1%）と一般人（全体の11%）については確認の手段が無いとして、その他について適当な人名録を選ぶと、全体では約20万人のデータにより現れた回数で3/4程の人名が確認可能である。

文 献

- [1] 石井 暁：“新聞における校正・校閲の実データによる調査”、TR-039、新世代コンピュータ技術開発機構（1983）
この概要が次の物になっている。
Ishii, S.：“Study of Proofreading Techniques Used at a Japanese Newspaper”、情報処理学会第28回（昭和59年前期）全国大会講演論文集（II）2M-7、pp.1205～1206、情報処理学会（1984）
- [2] 加藤康司：“校正おそるべし”、有紀書房（1959）
- [3] 楠山定編：“朝日年鑑1983年版”、朝日新聞社（1983）
- [4] 長谷川鑛平：“本と校正”、中公新書83、中央公論社（1965）
- [5] 大蔵省印刷局編：“職員録（昭和58年版）”、大蔵省印刷局（1982）
- [6] 大学職員録刊行会編：“1983全国大学職員録”、廣潤社（1982）
- [7] ダイヤモンド社編：“ダイヤモンド会社職員録（全上場会社版）1983年”、ダイヤモンド社（1982）
- [8] ダイヤモンド社編：“ダイヤモンド会社職員録（非上場会社版）1983年版”、ダイヤモンド社（1983）
- [9] 著作権資料協会編：“出演者名簿1983年版”、著作権資料協会（1982）
- [10] “棋士名鑑”、昭和57年版将棋年鑑、pp.335～381、日本将棋連盟（1982）
- [11] “棋士名鑑”、1982年版囲碁年鑑、pp.389～441、日本棋院（1982）
- [12] “記事のフォーム”、記者ハンドブック第4版第3刷、pp.327～338、共同通信社（1982）

- [13] “12球団新陣容”、朝日新聞1983年3月28日号、朝刊、pp.28～29、朝日新聞社(1983)
- [14] “昭和五十八年度九月場所東西幕内十両力士星取表”及び“昭和五十八年度九月場所東西幕下以下力士星取表”、相撲1983年10月号、pp.182～185、ベースボール・マガジン社(1983)
- [15] “人名、年齢の書き方”、記者ハンドブック第4版第3刷、pp.359～363、共同通信社(1982)
- [16] “人名等の書き方”、新版記事スタイルブック-新用字用語集-新版2刷、pp.443～452、時事通信社(1983)
- [17] “朝刊1部の文字の量”、あなたの朝日新聞、p.11、朝日新聞社
- [18] 朝日新聞1983年7月17日号、朝刊、p.16、朝日新聞社(1983)

付録 1. 無視した人名の出現

次の3種、12回については無視した。

・別の型式で用いられた物

ソール地裁の大法廷（裁判長 ■ 安又萬部長判事）

ディッコ議長（ナイジェリア）

ヒルベルト・メンドサ会長（ベネズエラ）

2番目の例は、この人がある会の議長であり、ナイジェリアの人であるという意味である。3番目も同様である。

・2人の列挙で型式が異なる物

ニッツ米、クビチンスキー・ソ連首席代表

藺山、山田新旧総裁

～ 、広瀬豊平各氏

～ ・玉井幸助両博士

最後の2つの例は、“各”、“両”の扱いが、本文では考えられていない。

・1人に複数の職名等が付く物

鄧小平党顧問委主任（党・国家中央軍事委主席兼務）

カストロ・キューバ国家評議会議長（首相）

グロムイコ第一首相兼外相

米長邦雄王将・棋士

久保源治・取締役大阪支店長

型式	面												合計
	1	2	3	4	5	8	9	10	11	12			
(1) (i) {名前} {組織名} {職名} {名前}・{組織名} {職名} {名前} {組織名} {職名} {名前} {組織名} {職名} (ii) {組織名} {... {名前} {職名}.. (iii) {組織名} {職名} {名前} (小計)	5	1					2	3					48
	1												11
													5
		3											4
			1				1	1					8
													3
		6	4	1				3	4				79
		9	14	5				3	4				207
													2
													18
(小計)	9	14	5				4	4				227	
(3) (i) {名前} {敬称} {姓} {名} {敬称} (ii) {肩書} {名前} {敬称} {前} {肩書} {名前} {敬称} (iii) {肩書} {名前} {肩書}・{名前} {肩書} {名前} (小計)	6	9			6	4	9	12	15				164
								1	1				50
			5		1	1	1	3					28
									1	1			2
		5			1								22
						1	1						2
													4
		11	14			8	5	13	13	19			272
		13	7	3	1	29	90	1	107	3			1237
			1			3	3	1					11
	2				4	1	5					45	
(小計)	15	8	3	1	36	94	7	107	3			1293	
合計	41	40	9	1	44	99	20	127	30			1871	

付録3. 組織名と職名が伴う物の組織名の一覧

(国会・政府・裁判所)		(外国)	
衆院	1回	米	6回
参院	2	NASA	1
水産庁	2	軍備管理局	1
食糧庁	1	米海軍	1
行管庁	1	米復役戦艦ニュージャージー	1
科学技術庁	1	パキスタン	4
総理府	2	西独	1
官房	3	レバノン	1
防衛庁官房	1	フィンランド	1
食品流通局	1	アラブ首長国連邦(UAE)	1
大蔵省主税局	1	ハンガリー社会主義労働者党	1
施設部	1	全人代常務	1
国防会議事務局	1		
内閣審議室	1	(大学)	
厚生年金保険部会	1	東京医科歯科大学	1回
中部山岳国立公園管理事務所	1	東京医科歯科大	1
横浜地裁	1	東京医科歯科大学医学部	1
熊本地裁	1	放送大学	2
熊本地裁民事三部	1	東京学芸大	2
		高知医大	1
		帝京大医学部	1
		医学部	2
		同大付属病院	1
		(会社)	
(政党)		全日空	1回
自民党	1回	丸栄	1
自民党行財政調査会	2	イラン化学開発	1
自民党国対	1	高橋絹織	1
社会党	1	青南商事	1
社会党参院国会対策	1	営業本部第4営業部	1
公明党	1	製作本部	1
民社党	1	事務局	2
共産党	1		
自夕連	1		
議員団	1		
国会対策	3		

付録4. 組織名と職名が伴う物の職名の一覧

(国会・政府・裁判所)

議長	1回
議員	2
長官	6
総務長官	1
総務副長官	1
部長	1
裁判長	3

(政党)

委員長	10回
代表	1
幹事長代理	1

(外国)

大統領	10回
首相	2
石油相	1
大統領特別顧問	1
第一書記	1
艦長	1
軍曹	1

(大学)

学長	1回
教授	4
助教授	2

(会社)

社長	5回
----	----

(一般)

長	22回
所長	1

付録5. 職名が伴う物の職名の一覧

(国会・政府・裁判所)		(外国)	
議長	8回	大統領	14回
副議長	4	鉱業エネルギー相	1
代議士	5	石油相	1
首相	24	国務長官	2
外相	7	在日韓国大使	1
通産相	2	第一書記	1
農林水産相	1		
農水相	3	(大学)	
厚相	1	教授	20回
法務大臣	1		
官房長官	3	(会社)	
官房副長官	1	社長	2回
外務次官	1	副社長	2
事務次官	1	専務	3
次官	2		
総務長官	1	(スポーツ)	
長官	4	部長	2回
審議官	1	監督	9
検事長	1	コーチ	1
次席	1	三塁コーチ	1
検事正	1	主将	7
審判官	1	選手	4
市長	1	投手	10
男爵	1	三塁手	2
被告	1	遊撃手	1
		外野手	1
(政党)		中堅手	1
委員長	10回	球審	1
副委員長	2	隊長	1
代表	2	関	1
書記長	1	五段	1
書記長代行	2	六段	1
		七段	4

八段 1回

名人 1

(新聞社)

編集委員 1回

記者 1

特派員 17

(一般)

總裁 1回

理事長 1

専務理事 1

会長 10

会長代理 1

副会長 1

委員 1

所長 1

付録6. 肩書が伴う物の肩書の一覧

(職業)		関東学院大経済学部一年	1回
大蔵大臣	1回	所沢市立山口小三年	1
弁護士	1	三年	1
公認会計士	1		
税理士	1	(身分)	
精神分析医	1	石油王	1回
海事代理人	1	愛人	1
会社員	4	巡礼者	1
作家	1	米富豪	1
作曲家	2	名手	1
陶芸家	1	民間信仰研究家	1
英語教師	1		
教員	1	(スポーツ)	
民謡歌手	1	監督	1回
代表	2	補手	1
幹事長	2	横綱	3
トレース業	1	大関	1
工芸店経営	1		
所沢富士幼稚園児	1		
暴力団員	1		
無職	3		
(家族関係)			
父	2回		
母	1		
母親	1		
妻	3		
長男	5		
(所属)			
藤沢市	1回		
横浜市旭区	1		
国鉄東北地方資材部秋田資材 事務所第二購買係	1		

付録7. 敬称が伴う物の敬称の一覧

氏	127回
さん	87
君	12
様	2
ちゃん	4
翁	2
博士	2
先生	2
代表	1
陛下	4
未亡人	1